

「市川市総合計画（案）」についてのパブリックコメント実施結果

市川市 企画部 企画課

1 実施期間

令和7年10月18日(土)～令和7年11月16日(日)

2 ご意見を提出していただいた方の人数及び件数

① インターネット	13人	41件
② ファクシミリ	0人	0件
③ 企画課へ提出（持参）	1人	1件
④ 市政情報コーナー（中央図書館等）	0人	0件
⑤ 郵送	0人	0件

3 ご意見への対応

① ご意見を踏まえて、案の修正を検討するもの	11件
② 今後の参考にするもの	25件
③ ご意見の趣旨や内容について、考え方を盛り込み済みであるもの	6件
④ その他（本計画そのものに対するご意見でないもの等）	0件

4 ご意見の概要と市の考え方

No.	ご意見の概要	市の考え方	対応
1	外国人の在住の方がかなり増加していますが、その人達だけのコミュニティが形成され、独自の空間が拡がっています。在住人数を抑制して欲しいですが、それが難しいのであれば、日本での生活マナーを学んで貰えるような機会を行政側で作ってほしい。	施策別計画「10 平和・国際交流」において、地域社会における多文化共生を推進する旨、記載しています。 また、ご意見については、関係部署に共有し、今後の取り組みの参考とします。	②
2	市として抱える課題について、適切に明確に見通しが立てられていると感じた。特に20代の転入は多い一方で、30,40代の子育て世代は転出の方が多いという点が気になった。（良化傾向はあるものの）自分自身20代で今後子供を作ると考えたときに、児童数が減っている一方で外国人児童が増加しているという点は不安を覚えた。支援が必要という点は理解しているが、在住外国人への支援という点は、第二の川口市とならないよう注意しながら行って欲しい。	施策別計画「10 平和・国際交流」において、地域社会における多文化共生を推進する旨、記載しています。 また、ご意見については、関係部署に共有し、今後の取り組みの参考とします。	②

3	<p>地図上に東京を中心とした同心円を描いています。市川市を網掛けで表現しています。ただ、「市川市」の文字が、市川市の場所とは異なる同心円域（同心円帯）にある点は改善の余地があります。東京に近い=20km圏内=ことを表すための同心円だと思うのですが、30km圏の場所に書かれており、東京への近さを主張するには不利な書き方になっているためです。市川市域のある20km圏内に文字も配置すると良いと思います。</p>	<p>計画内容が確定した後、わかりやすい地図を掲載します。</p> <p><u>計画（案）該当頁：3</u></p>	①
4	<p>・冒頭の地形説明</p> <p>本市は北部の下総台地と南に広がる沖積平野により構成されています。は、わかりやすいです。ただ、「その台地には縄文時代の…」と続くため、「台地」と「平野」の両方の説明が出てこないのが少し不自然にも思えます。</p> <p>→「北部は台地、南部は平野」という地形の違いが後の歴史（貝塚が台地に、農耕が平野に、など）にどう影響したか、少し書かれていると、読んでいて自然に感じます。</p>	<p>ご意見を踏まえ、読み手が理解しやすい文章に修正します。</p> <p>また、計画内容が確定した後、わかりやすい地図や写真を掲載します。</p> <p><u>計画（案）該当頁：4</u></p>	①
5	<p>・中世（鎌倉 - 室町）</p> <p>「日蓮は…八幡庄（若宮館）に滞在したことなどから…」「八幡庄」や「若宮館」の位置・関係性が不明瞭で、かなり市川市の歴史に精通した人でないと、珍紛漢紛（ちんぶんかんぶん）だと思います。一般の読者を想定した書きぶりにするのであれば、は地名の説明が必要です（文字数の関係で、それが難しいことは重々承知していますが）。</p>	<p>ご意見を踏まえ、読み手が理解しやすい文章に修正します。</p> <p>また、計画内容が確定した後、わかりやすい地図や写真を掲載します。</p> <p><u>計画（案）該当頁：4</u></p>	①
6	<p>・江戸時代の部分</p> <p>歴史的な情報が非常に多いと感じます。文字を目で追っても頭の中でイメージをむすびにくいかかもしれません。</p> <p>→1段落で多方向に展開しているため、「①成田街道と水運」「②市川宿と中山の発展」「③産業（梨栽培）」のように、段落を分けると読み手の理解の助けになると思います。</p>	<p>ご意見を踏まえ、読み手が理解しやすい文章に修正します。</p> <p>また、計画内容が確定した後、わかりやすい地図や写真を掲載します。</p> <p><u>計画（案）該当頁：4</u></p>	①
7	<p>・明治 - 戦後</p> <p>「国府台には軍隊が駐屯し軍隊の街として栄え」</p> <p>→「その後、鉄道の開通により…」と転換しています。文を分け、「軍都」→「交通」→「宅地化」のように、構造化すると、時系列を追いやすく、理解しやすくなると思います。</p>	<p>ご意見を踏まえ、読み手が理解しやすい文章に修正します。</p> <p>また、計画内容が確定した後、わかりやすい地図や写真を掲載します。</p> <p><u>計画（案）該当頁：4</u></p>	①

8	<p>・文人の記述（白秋・荷風など）</p> <p>この流れで、文学者のが出でくると、やや唐突感があるかもしれません。</p> <p>→「市川が文人に愛された理由」（のどかな風景？都心から距離が近い？）を少し入れ込むと、意味が伝わりやすいう思います。</p>	<p>ご意見を踏まえ、読み手が理解しやすい文章に修正します。</p> <p>また、計画内容が確定した後、わかりやすい地図や写真を掲載します。</p> <p><u>計画（案）該当頁：4</u></p>	①
9	<p>このページの文章は、資料全体の冒頭に当たり、歴史の流れを一気に書くので難しいと思いながら、客観的な視点で読んでみました。市川市の歴史、現在に至るまで野ストーリーを知ることができ、とても良い文章だと思います。ただ、総じて、一文が長いため、「時代ごとに文を区切ると、読みやすさが増すように感じました。専門用語や地名が多い部分には、現在の地名、位置関係などの補足を加えると、読者＝市川市民が、「自分ごと」と思って読んでくれるのではないかでしょうか。</p>	<p>ご意見を踏まえ、読み手が理解しやすい文章に修正します。</p> <p>また、計画内容が確定した後、わかりやすい地図や写真を掲載します。</p> <p><u>計画（案）該当頁：4</u></p>	①
10	<p>「また、年少人口と生産年齢人口割合が減少する一方、老人人口割合が増加し」</p> <p>→「年少人口」も、他に合わせて「年少人口割合」とするほうが自然です。</p>	<p>ご意見を踏まえ、「年少人口と生産年齢人口割合」から「年少人口と生産年齢人口の割合」に修正します。</p> <p><u>計画（案）該当頁：5</u></p>	①
11	<p>とても文学的（詩のようです）な文章で、綺麗だな、美しいな、との印象を持ちます。それはこの文章の美点・長所だと思いますが、抽象的なので、具体的な未来像は見えにくいとも感じます。ここではあえて抽象度の高い表現をしたいのであれば、変更する必要はないと思います。ただ、往々にして、「根幹」「原動力」「使命」「豊かさ」などのキーワードを散りばめた文章は、あまり市民にとって自分ごとにはならない（自分ことは距離を感じてしまうかもしれない）とも思います。2050年＝長期目標にふさわしい具体的な市川市のイメージ（テクノロジー、自然、コミュニティのありかた）は、ここではあまり触れられていません。これら個別具体的なカテゴリー別の話は後掲するので、ここでは触れないで良いということであれば、繰り返しになりますが、現在のままでも良いと思います。</p>	<p>基本構想の「2. 基本目標」や基本計画において、具体的な内容を記載しています。</p>	③
12	<p>・いのちを尊び 知性と希望を育み 環境と共生して 和がつながるまち ここは、いのち／知性と希望／環境／和、と、短い一文の中に多くのキーワードが詰まっていて、「このまちの核（コア）」が何かはわからないです。階層構造（いのち→知性→環境→和、など）を意識した書き方だと、少しわかりやすくなるかもしれません。</p> <p>→例えば、</p> <p>「いのち」がすべての基盤であり、</p>	<p>将来都市像に関する説明文章において、関係性を記載しています。</p>	③

	<p>「知性」がそれを支え、 「環境」との共生が未来をひらき、 「和」が人々をつなげる・・・ という感じで関係性を明示すると、構想の中心が伝わりやすいかも知れません。</p>		
13	<p>・すべてのいのちが尊重されています・・・それぞれのいのちが平等に守られ、支え合い、共存しています。もちろん大事なことで、あたりまえのこと、そのあたりまえが必ずしも守られていないかもしれないということから、明文化することに意味があると思うものです。ただ、この美しい理想・ビジョン・目指す姿の実現を、「どうやって」行うのか、がないので、ほんやりした印象です。（もちろん、目指す姿<what>を示すパートなので、どうやって<how>は不要、とのお考えであろうことは理解しております）</p> <p>→例えば、「医療・福祉・地域共助が連携し」「多様な生き物と暮らすまちづくりを進め」のように、少し具体的な行政の活動などと関連付けた言い回しを含めると（全体の詩的な品格は崩さない範囲で）、ここで謳っている理想に説得力が増すと思いました。</p>	<p>基本構想の「2. 基本目標」や基本計画において、具体的な内容を記載しています。</p>	(3)
14	<p>・環境と共生して・・・持続可能な未来を築くための道が確立され、一人ひとりの営みに浸透しています。個人的な印象ですが、「道が確立され」は、抽象的、もっと言うと（すみません）行政っぽいと言いますか。偏見かも知れません。すみません。</p> <p>→市川市で進めているカーボンニュートラルとの関連も念頭に置けば「再生可能エネルギーの利用が進み」「自然と人が共に生きるデザインが日常に息づく」など、身近で実感しやすい語を使うと良いとも思いました。</p>	<p>基本構想の「2. 基本目標」や基本計画において、具体的な内容を記載しています。</p>	(3)
15	<p>・和がつながるまち</p> <p>ここには、争いではなく、調和の中から生まれる真の平和があります。異なる意見をぶつけあい、議論し、検討する、というプロセスは常に社会にあります。「争いではなく」という言い方は、人によって捉え方が大きく異なるため、少し表現を変える方が良いようにも思います。</p> <p>→「対話と共感により、（個々の）違いを超えた（認め合い？）調和が生まれます」などの、多様性があるのはあたりまえである、ということを前提にした表現の方が、受け入れやすいかもしれません。</p>	<p>基本構想の「2. 基本目標」や基本計画において、具体的な内容を記載しています。</p>	(3)

16	<p>・こうしたまちの根幹、原動力、使命、豊かさが、一人ひとりの幸せにつながっています。</p> <p>ここで挙げられた「根幹・原動力・使命・豊かさ」は、上で触れている4つのテーマを括っています。</p> <p>→ 対応を示すと理解しやすくなります。</p> <p>「いのち」はこのまちの根幹、 「知性と希望」は原動力、 「環境との共生」は使命、 「和」は豊かさを象徴しています・・・というような感じで。長々と失礼しました。これ以降も拝読し、もし気付いた点などがあれば再び意見というかたちで提出するかもしれません。どうぞよろしくお願ひいたします。重要なマスタープラン作成、とても大変な作業だと理解しています。熱く応援しております！</p>	<p>重複を避けるため、現在の構成となっています。</p>	(3)
17	<p>・【まちづくりの方向性】の中の「健康寿命日本一」</p> <p>現在の市長がこだわっている「健康寿命日本一」ですが、市川市の健康寿命は千葉県内の自治体でも中位くらいです。全国で1位を目指すのは、千葉県大会で2、3回戦くらいのレベルの高校野球チームが甲子園で優勝を目指すというような、現実離れした目標です。と思っていたら、実際に日本一を目指すものではない、との説明が市川市からされていました。しかし、そうであれば、「健康寿命日本一」という言葉はミスリードを誘発する可能性が極めて高いので、使うべきではないと思います。そもそも仮に「日本一」になっても、全国で（ありえないとは思いますが）健康寿命が短くなったら、相対的に1位であっても、それはよいことなのかという話になります。他と比較して、他より優位か劣後かという見方は、こういうマスタープランからは外すべきではないでしょうか。</p> <p>→単に「健康寿命延伸」ではいけないのでしょうか。</p> <p>(P18は「重点項目 3 健康寿命の延伸」となっていますので、これに合わせても良いと思います)</p>	<p>「健康寿命日本一」のスローガンを掲げ、健康寿命の延伸に取り組んでおり、その方向性を継続します。</p>	(2)
18	<p>5つの基本目標に関連付けて「まちづくりの方向性」を打ち出しています。しかし、おそらく各部・各課からの意見を吸い上げたものだからでしょう、表現に全く統一性がなく、改善は避けられないと思います。</p> <p>1 【まちづくりの方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰一人取り残さないあたたかなまち ・健康寿命日本一 ・こどもたちの健やかな成長 ・学びの多様化・居場所づくり <p>2 【まちづくりの方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平和・核兵器廃絶 	<p>各部署からの意見のみではなく、様々な要素を踏まえ、現在の構成となっています。</p>	(2)

<ul style="list-style-type: none"> ・防災・減災・安全 ・暮らしの安心・防犯 <p>3【まちづくりの方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害を乗り越える強靭なまちづくり ・古きを残したつながりのあるまちづくり ・道路ネットワークや新たな都市基盤の整備 <p>4【まちづくりの方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カーボンニュートラルの実現に向けてすべての技術革新を導入する社会 ・すべてのいのちを尊ぶ（植物・動物） <p>5【まちづくりの方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史の掘り起こし ・文化・スポーツの力によるまちの活性化 ・地域経済の活性化 ・世界の人が集まる国際都市 <p>パッチワーク的で、意見を集めたものの、表現・形式の統一が図られていません（限られた時間の中で案を作られた皆様には感謝しています！）。</p> <p>▼形式を揃える</p> <p>名詞型（～なまち、～な社会、～な都市）にするか、動詞型（～する、～を進める）に統一すると良いと思います。</p> <p>「誰一人取り残さないあたたかなまち」</p> <p>「災害に強いまちづくり」</p> <p>「すべてのいのちを尊ぶまち」</p> <p>▼語尾・語調を統一する</p> <p>「～なまち」「～社会」「～都市」といった形で統一すると、文章としてのリズムが揃いますし、綺麗です。</p> <p>例）</p> <p>誰一人取り残さないあたたかなまち</p> <p>健康寿命日本一（？？？）のまち ←私は改善が必要だと思います</p> <p>こどもたちの健やかな成長を支えるまち</p> <p>学びの多様化と居場所づくり</p> <p>平和と核兵器廃絶を目指すまち</p> <p>防災・減災に強いまち</p> <p>暮らしの安心と防犯が確保されたまち</p> <p>災害に強いまち</p> <p>歴史とのつながりを残すまち</p> <p>道路・都市基盤が整備されたまち</p> <p>カーボンニュートラルを実現するまち</p> <p>すべてのいのちを尊ぶまち</p> <p>歴史・文化・スポーツで活性化するまち（？あまりよくないで</p>	
--	--

	<p>すね)</p> <p>地域経済が活性化するまち（？あまりよくないですね）</p> <p>世界の人が集まるまち／国際都市</p> <p>▼長文はなるべく避ける</p> <p>特に技術・環境系の長い文章は短く簡潔にしないと、説明的すぎて（文字数が多い方が理解されやすいとも限りません）わかりづらいですね。</p> <p>「カーボンニュートラルの実現に向けてすべての技術革新を導入する社会」</p> <p>→「技術革新でカーボンニュートラルなまちづくり」とするなど。</p>	
19	<p>現状：</p> <p>重点項目7 まちの一体感の醸成</p> <p>本市の昼夜間人口比率（夜間人口100人当たりの昼間人口の割合）は、近隣市と比べて低く、また、通勤・通学者の半数以上が市外に移動しています。このように、ベッドタウンとして特性が顕著であることから、市民と市民、市民と地域のつながりが希薄となり、まちの一体感が醸成されにくい状況です。本市の多彩な文化や地域資源、スポーツの力などを生かしながら、市民、自治会、NPO、企業、大学などが連携し、多様なつながりを創出することで、まちの一体感の醸成に取り組みます。個人的な感覚で申し訳ないのですが（このパートの問題意識や背景はよくわかるのですが）「まちの一体感」とは何か、それがないことの何が問題で、それがあるとどうなる（どんな良いことがある）のかを、併せて書いてほしいです。そうでないならば、「一体感」という語を使わない、以下のような書き方で（書き方が）よいのではないか？</p> <p>→案：重点項目7 まちのつながりの強化</p> <p>本市の昼夜間人口比率（夜間人口100人当たりの昼間人口の割合）は、近隣市と比べて低く、また、通勤・通学者の半数以上が市外に移動しています。このように、ベッドタウンとして特性が顕著であることから、市民と市民、市民と地域のつながりが希薄となり、地域のまとまりを感じにくい状況です。本市の多彩な文化や地域資源、スポーツの力などを生かしながら、市民、自治会、NPO、企業、大学などが連携し、多様なつながりを創出することで、地域としての結びつきを強化していきます。再度、長々と失礼しました。最後までしっかりと読ませていただきます。他に何か気付いた点などがあれば、改めて意見を提出するかもしれません。よろしくお願ひいたします。将来のまちづくりの指針となる、重要なマスターplan作成、大変な作業だということは理解しています。熱く（強く）応援しております！</p>	<p>ご意見を踏まえ、「地域のまとまりを感じにくい状況」を改善し、地域としての結びつきを強化することが「まちの一体感の醸成」に寄与する旨の記載とします。</p> <p><u>計画（案）該当頁：23</u></p> <p>①</p>

20	<p>子育てをながら働く30代、40代世帯の転出超過は税収に大きな影響があるが、その最たる理由は川を挟むだけで格段に恵まれた子育て支援が受けられる都内にいた方が良いと判断するからである。都が行っているものと同程度の子育て支援を行えれば、地理的メリットと歴史的な文教地区としてのイメージがメリットとなり、本市が更に活気付くと思う。具体的にはベビーシッター補助、医療費完全無料の政策だけでも都に倣って取り入れるべきである。また、朝の朝食付き学童まで支援ができればフルタイム共働き世帯を呼び込むことができると考えます。</p>	<p>30代と40代前半（子育て世代）の転出超過については、本市の重点課題として捉えています。また、ご意見を関係部署に共有し、今後の取り組みについて多角的な検討を進めます。</p>	②
21	<p>市川市は自然が多く、緑豊かな環境が魅力だと感じています。特にじゅんさい池や国府台周辺は四季を感じられる大切な場所で、今後も自然を大切にしたまちづくりを進めてほしいと思います。一方で、子育て世帯の立場からいくつか改善をお願いしたい点があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援施設の不足 <p>市川駅周辺や中国分エリアには、親子で気軽に集える施設やイベントが少ないように感じます。赤ちゃんや子どもが遊べるスペース、またママたちが交流できるカフェやコミュニティースペースなどを増やしてほしいです。</p>	<p>個別・具体的なご意見であるため、関係部署に共有し、今後の取り組みの参考とします。</p>	②
22	<ul style="list-style-type: none"> ・中国分・じゅんさい池周辺の環境整備 <p>じゅんさい池周辺は自然が豊かで魅力的ですが、草木の手入れが行き届いていない箇所や、放置されたように見える場所もあります。また、夜は街灯が少なく、人通りがなくて不安に感じることがあります。安全性の確保や定期的な清掃・整備をお願いしたいです。</p>	<p>個別・具体的なご意見であるため、関係部署に共有し、今後の取り組みの参考とします。</p>	②
23	<ul style="list-style-type: none"> ・交通面・バリアフリー対策 <p>中国分周辺は坂道が多く、お年寄りや子連れには移動が大変です。ベビーカーでも移動しやすい歩道整備やスロープの設置を検討してほしいです。中国分こども館周辺には保育園もあるのに道幅が狭く、交通安全上の不安があります。歩道の拡幅など安全対策を進めてほしいです。また、国府台病院から里見公園にかけての桜並木の道も同じく安全対策を検討して欲しいです。</p>	<p>個別・具体的なご意見であるため、関係部署に共有し、今後の取り組みの参考とします。</p>	②
24	<ul style="list-style-type: none"> ・保育環境・保育料について <p>中国分周辺には保育施設が少なく、入園先の確保が難しい状況です。また、課税世帯の保育料負担が重く感じるため、所得に応じた柔軟な軽減措置を検討してほしいです。</p> <p>【まとめ】</p> <p>自然と子育てが両立できるまち、市川市をこれからも応援しています。地域の安全性と子育て環境の充実を進めていただけることを期待しています。</p>	<p>個別・具体的なご意見であるため、関係部署に共有し、今後の取り組みの参考とします。</p>	②

25	<p>重度知的障害の子どもを持つ親としての目線から計画案を拝見いたしました。子どもの「特別な支援」のニーズが増していることを認識していただき、心より感謝申し上げます。その上で、下記についてより踏み込んだ計画立案と施策実行をお願いしたいと思います。</p> <p>1. 切れ目のない支援の具体化（乳幼児期～成人期）</p> <p>乳幼児期の療育・発達支援：知的障害の早期発見・早期支援のための専門機関や人員配置について、計画案には具体的な言及が少なく、現状のより正確な把握と更なる充実計画の策定・実施をお願い致します。</p>	<p>個別・具体的なご意見であるため、関係部署に共有し、今後の取り組みや個別計画の策定にあたっての参考とさせていただきます。</p>	②
26	<p>2. 卒業後の生活・就労支援</p> <p>学校卒業後の居場所（日中活動支援及びグループホーム、就労支援、生活介護事業）に関する支援体制について、具体的な整備計画策定をお願い致します。</p>	<p>個別・具体的なご意見であるため、関係部署に共有し、今後の取り組みや個別計画の策定にあたっての参考とさせていただきます。</p>	②
27	<p>3. 学校現場での具体的な個別支援</p> <p>「特別な支援を要する児童生徒」の増加に対し、通級指導教室や特別支援学級の適切な配置、および教員や支援員（介助員）の質の向上と増員について、具体的な数値目標の設定と実行をお願い致します。</p>	<p>個別・具体的なご意見であるため、関係部署に共有し、今後の取り組みの参考とします。</p>	②
28	<p>4. 保護者への支援：</p> <p>知的障害を持つ子どもの子育ては長期にわたります。相談支援体制やレスパイトケア（短期入所）の拡充について、周辺自治体との連携も含めた、整備計画の策定と実行をお願い致します。</p> <p>乳幼児期の療育から始まり、学校卒業以降も含めた全ての支援計画は、障害を持つ方々のQOL（生活の質）を大きく左右する事になります。計画に数値目標を伴う形での明記を是非ともお願いしたいと考えております。</p> <p>何卒、よろしくお願い申し上げます。</p>	<p>個別・具体的なご意見であるため、関係部署に共有し、今後の取り組みや個別計画の策定にあたっての参考とさせていただきます。</p>	②
29	<p>本八幡北口の再開発に際し、「子ども食堂」という限定的な枠にとどまらず、誰もが利用できる地域食堂の設置をご検討いただきたいです。現在、市川市に住む若い世代の多くはコンビニなどに依存した食生活を送っており、共働き家庭では日々の食事作りが大きな負担となっています。また、一人暮らしの高齢者の方々の食生活も、不規則で栄養が偏りがちな傾向があります。「健康都市・市川市」として、地産地消の安心・安全な食材を用い、栄養バランスの取れた食事を提供できる地域食堂を整備していただければ、健康増進だけでなく、世代や立場を超えた地域コミュニティの交流の場にもなると考えます。</p> <p>ぜひ、誰もが気軽に立ち寄れる大きな地域食堂の設置のご検討をお願いいたします。</p>	<p>個別・具体的なご意見であるため、関係部署に共有し、今後の取り組みの参考とします。</p>	②

30	<p>市川出身で結婚してから子育ても宮久保で行っています。宮久保地区に大きい公園がなく、子供が十分に遊べる場所もなくて、ボール遊びも道路でやらざるを得ない状況で、近所の方に注意されたりしながら、周りに気を付けつつ遊ぶような状態でした。子供が育つと同時に宮久保6丁目市民広場ができました。周りは私の親世代が多い住宅地です。子供が非常に少ない環境です。思い切り外遊びがさせたくて、子供が一歳の頃からよくプレーパークに連れて行きました。ボランティアとして、プレーパークにも関わるようになりました。市川市がプレーパークを主催する団体（市川子どもの外遊びの会）と相談しながら、宮久保プレーパークを造っていただいたことは、とても嬉しかったです。宮久保プレーパークは最初とても狭く感じましたが、子供たちはその中でものびのびと走り回り、子供同士喧嘩をしてもいつのまにか仲良く遊ぶようになり、色んな小学校区の子どもたちが集まり、常連の子どもたちが定着していきました。里見公園（月一開催）でのプレーパークとは違って、小学生一人でも来られる居場所になっていました。そこで育った中学生もスマート手に寄ってくれることもありました。</p> <p>非常に残念なことに宮久保プレーパークはなくなってしまいました。以来、プレーパークは宮久保地区の西ノ下公園と宮久保6丁目市民広場で活動しています。活動している中で思うことは、宮久保プレーパークに来ていた親子、子供たちの足が離れてしまったことです。本来ならば、子育て期間も育った後も継続して来られる居場所であります。またプレーパークがあつてよかったと心から思ったのは、子供が不登校になった時のことです。子供が不登校の時は家から出ることが出来ず、親も子も不安でいっぱいでした。学校の友達に声をかけられなくても、子供の頃から知っている大人や子供とプレーパークで遊べたこと、遊べる気持ちになれない時でもそのままいるだけでいられる居場所があったことです。外に出かけようという気持ちになってくれた時でした。今や不登校の子はクラスに何人もいるのが小中学校の現状です。小学校は低学年の不登校の子も多いです。そんな時にプレーパークがあるだけで、学校外の子と遊べる選択肢の一つになります。また宮久保地区の公園は、住宅地の一角にある小さな公園が多く、子どもたちが思い切り体を動かすことができませんでしたが、宮久保6丁目市民広場ができて、子供たちが集まるようになりました。宮久保6丁目市民広場の難点をあげると、陰になってくれる木もなければ、市民が休めるベンチもありません。そのため猛暑の夏は子供たちも遊びに行きにくいです。ボール遊びができるようになっていますが、近所の家に近く、ネットが充分な高さまで張っていないのは危なっかしいです。これは管財課に10年前くらいにお伝えし</p>	<p>個別・具体的なご意見であるため、関係部署に共有し、今後の取り組みや実施計画の策定にあたっての参考とします。</p> <p>②</p>
----	---	---

ていますが、改善されません。簡易ネットが張ってあります、裏からも入りたい子がいるのか、破けていることもあります。そして周りは高齢者がとても多いです。

高齢者も散歩して体を動かすことが大事ですが、ゆっくり休める公園が少ないです。高齢者もまた社会と繋がる居場所が必要です。宮久保6丁目市民広場が草刈りをされていますが、この後どう変わるのが、見通しが立っていません。

●要望したいことは実施計画の中に、子供の居場所の一つとして、プレーパークを入れていただきたいです。そして子供たちはもちろんのこと、地域住民や高齢者やどの年代も行きやすい居場所にするために、地域住民と相談しながら、宮久保6丁目市民広場に常設のプレーパークを作ってほしいです。

プレーパークのような子供が自由に遊べる場所を地域の中につくることで、地域の大人は立場を超えてつながり、希薄になっていた地域の関係性は再構築されます。つながりを取り戻した大人たちが遊び心を持ち寄ることによってこそ、子供が自分で遊びを手作りできる余白を残した挑戦できる環境をつくることが可能になります。自由な遊びを通してありのままの自分を出せる場所にするには、単にスペースがあるだけでなく、約束せずに遊べる仲間がいること、そしてある程度大人が見守ることが大切な時代になってきたと思います。プレーパークは、先生でもない、親でもない、プレーリーダーという大人が常駐していることで、子供を見守り、子供のやりたいことを存分に發揮させることができます。プレーリーダーは専門の訓練を受けたリーダーもいますが、あるプレーパークでは社会人や学生など様々な方がボランティアとして関わります。プレーパークは子供と対等な大人が子供自身を認めてくれる心地よい居場所の力も担い、子供の自尊心も育む場になっています。外遊びを通して子供が地域の中で、自らゆっくりと育った経験が、私たちから子供へ、そして子供から未来へ繋がってほしいと思います。

総合計画案の中には以下の部分に関係するのではと思い、提出させていただきます。

【基本目標】

02 こども・若者 (1)、(2)、(3) こどもの居場所づくりと若者への支援

03 こどもの教育 (2) 豊かな人間性をはぐくむ教育、(3) 誰一人取り残さない教育

05 地域福祉 (2) 支えあいの地域づくり

06 高齢者福祉 (1) 住民全体の通いの場の充実と地域づくりの推進

21 公園・緑地・水辺 (1) 魅力ある公園の整備

31	<p>審議会に提出された「市川市総合計画（素案）」ではEBPM（エビデンスに基づく政策立案）に関する記述が見られましたが、パブリックコメント用の「市川市総合計画（案）」ではその記述がなくなっているように見受けられます。EBPMは、国においても高市首相の閣僚指示書等で重視されており、千葉県総合計画にも明確に位置づけられています。これらの動向を踏まえると、市川市の総合計画においてもEBPMの考え方を明記し、政策立案や事業評価の根拠を示す姿勢を示すことは、国・県との整合を図り、市の信頼性や透明性を高める上で極めて有意義であると考えます。つきましては、総合計画の中にEBPMの活用を明確に位置づけ、市の政策形成プロセスにおいても活用を推進していただけますよう、ぜひご検討をお願いいたします。</p>	<p>ご意見と踏まえ、EBPMの考え方を明記します。</p> <p><u>計画（案）該当頁：96</u></p>	①
32	<p>1. 目標設定の具体性</p> <p>現行の多くの成果指標では、令和16年度の目標値が「↑（上昇目標）」「↓（下降目標）」のように方向性のみで示されています。しかし、この形式ではSMART原則（Specific, Measurable, Achievable, Relevant, Time-bound）のうち、特に「Specific（具体性）」および「Measurable（測定可能性）」を満たしていません。その結果、進捗の定量的評価や達成度の検証が困難になります。</p> <p>提案：過去データの傾向分析、他自治体（中核市等）との比較、施策の想定インパクト評価を踏まえ、具体的な数値目標を設定することが望ましいと考えます。これにより、PDCAサイクルの有効な運用が可能となります。また、過去の審議会資料では、アンケートの集計時に 2ポイント以上増減した場合↑↓2ポイント以内の増減の場合は→と表現する場合があったと記憶しております。こちらの定義を利用するのも一案かと考えます。</p> <p>修正文言例：</p> <p>（現状）目標（令和16年度）：↑（上昇目標）</p> <p>（修正案）目標（令和16年度）：65.0%（現状の56.3%から8.7ポイント増）</p>	<p>当該計画では現案の目標値とし、次期基本計画では、当該計画の成果（過去データの傾向分析）などにより、具体的な数値目標を設定します。</p>	②
33	<p>2. 市民意識調査への依存と客観指標の補完</p> <p>現行の成果指標は、「〇〇と感じる市民の割合」など、主観的な意識データに依拠する傾向があります。</p> <p>こうした主観指標は、市民の体感を把握する上では有効ですが、外部要因（景気、社会情勢、報道等）による変動が大きく、施策効果の特定には不向きです。</p> <p>提案：意識調査結果を「主観的アウトカム」として重視しつつ、客観的な行動指標や統計データを組み合わせる「トライアングュレーション（Triangulation）」の手法を導入すると、政策評価の信頼性が高まります。</p> <p>具体例：「安心して子育てできると感じる市民の割合」（主観指</p>	<p>ご意見を踏まえ、測定可能な指標の中から、より効果的な指標を設定するため、調査・研究に努め、次期基本計画に反映します。</p>	②

	標)に加え、「子育て支援サービスの利用率」「市内公園における子ども連れ利用者数」などの客観データを補完的に用いる。※なお「こども・若者」施策における「出生数」は施策の成果指標としては不向きではないかと考えます(後述)。		
34	<p>3. アウトプット指標とアウトカム指標の区別(ロジックモデルの適用)</p> <p>一部の指標(例:「消防団員数」「市民活動団体登録数」)は、行政の活動量を示すアウトプット指標であり、市民生活の質(アウトカム)を直接示すものではないと考えます。</p> <p>具体例:「消防団員数」(アウトプット)→「初期消火成功率」(アウトカム)→「火災被害額の減少」(インパクト)といった階層的整理を行うことで、施策の効果が明確になります。</p> <p>現行の指標体系では、アウトカム指標を起点に体系を構築しており、アウトプット指標や施策の内容は今後実施計画等で検討される構成となっています。</p> <p>しかし、EBPMの観点からは、施策(アウトプット)と成果(アウトカム)の因果関係を明確にした上で指標を設定することが不可欠です。アウトカムを先に定める方式では、因果構造が後付けとなり、施策効果(「どの政策がうまくいったのか」)の検証や改善につながりにくいおそれがあります。そのため、ロジックモデルを用いて「課題→施策→アウトプット→アウトカム」の因果構造を整理し、各層の指標を整合的に設定する方法をご検討いただけますと幸いです。</p>	<p>ご意見を踏まえ、より効果的な指標を設定するため、調査・研究に努め、次期基本計画に反映します。</p> <p>また、実施計画の策定と計画の運用に際して、参考とします。</p>	(2)
35	<p>4. 施策と指標の因果関係の明確化</p> <p>一部の指標(例:「出生数」など)は、市単独施策での因果的影響が限定的であり、施策評価の妥当性が低下します。これはEBPMの基本である因果推論(Causal Inference)の観点からも課題といえます。</p> <p>提案:市の施策が直接的に影響を与える中間指標(例:「不妊治療助成利用件数」「産後ケアサービス利用満足度」「保育所利用可能率」等)を設定し、成果指標体系の因果構造を明確化することを提案します。</p>	<p>ご意見を踏まえ、ロジックモデルを活用したうえで、施策と指標の因果関係を明確にできるよう、調査・研究に努め、次期基本計画に反映します。</p>	(2)
36	<p>32 広報広聴のアウトカム指標に関して提案です。</p> <p>*現状の問題点: 指標が「SNSフォロワー数」のみ。フォロワー数が必ずしも市政情報の理解や信頼につながるわけではない。</p> <p>*改善アウトカム指標案:</p> <p>** (追加) 市公式YouTubeの1動画当たりの再生回数</p> <p>** (追加) パブリックコメント1案あたりの意見件数</p> <p>** (追加) パブリックコメント1案あたりの市民意見の施策へ</p>	<p>ご意見を踏まえ、「パブリックコメント1案あたりの意見件数」を追加します。</p> <p><u>計画(案)該当頁: 102</u></p>	(1)

	<p>の反映件数</p> <p>*(参考) 想定される対応アウトプット指標:</p> <p>**記者会見・プレスリリースの実施回数</p> <p>**パブリックコメント対象案の要約・解説動画付与率</p> <p>**市公式Webサイトのページビュー数および主要コンテンツのアクセス数</p>	
37	<p>市民アンケート（想定回答数2400）によって“Xだと思っている人の割合”が「上昇した」「減少した」と統計的にいには、およそ4ポイント程度の差が必要になります（1指標、二標本比率のMDE、検出力が80%の場合）。すなわち、指標↑↓となっている部分について、市民アンケートが1ポイント程度で「上昇した」「減少した」と結論付けて施策のPDCAサイクルを回すのはロジックとして通りません。施策実施前の時点で「何パーセント上昇なら上昇と言えるのか」を決めていただく必要があります。なお、5段階評価の4・5を「Xだと思っている人の割合」だとみなす以外にも、5段階評価の順序性を活かす方法もあります。また、「1つの政策を複数指標で評価する場合」「政策横断で全体計画を議論する場合」は、多重比較の補正が必要になり、さらにMDEは広がるはずです。統計的に厳密に行わざにしても、少なくとも「何パーセント上昇なら上昇と言えるのか」は定義していただかないと、施策のPDCAサイクルを正常に回すことはできないと考えます。標本調査の市民アンケートでなく、全数調査の統計であればロジックはそれほど複雑ではありませんので、アウトカム指標を全数調査の統計に変更することも検討いただければと思います。</p>	<p>当該計画では現案の目標値とし、次期基本計画では、当該計画の成果（過去データの傾向分析）などにより、具体的な数値目標を設定します。</p>
38	<p>【市川市における香害対策と市民意識改革の推進について】</p> <p>公共施設（学校、市役所、救急病院など）においては、震災などの有事の際に、すべての市民の健康を守るため、平常時から市民の意識改革を進めることが重要であると考える。近年、香り付き洗濯洗剤などに含まれる化学物質が健康被害を引き起こす例が報告されている。特に密閉・密集した空間では、香料がストレスや体調不良の原因となる場合があり、東日本大震災の避難所でも、香料によってそれまで健康だった人が体調を崩す事例が確認されている。香料を含む化学物質には多様な種類があり、法的な規制を設けることは容易ではない。そのため、まずは市民一人ひとりの意識改革を進めることが必要であると考える。</p> <p>〈具体的な取組案〉</p> <p>1. 公共事業関係者による率先的な実践教育関係者、医療従事者、市職員など、公共事業に関わる人々が、無害で無香料の製品を積極的に使用し、社会全体の意識変化を促す。</p>	<p>施策別計画「0.1 健康・保健」において、化学物質過敏性を含めた、健康に関する正しい意識を普及啓発する旨、記載しています。</p> <p>また、ご意見については、関係部署に共有し、今後の取り組みの参考とします。</p>

	<p>2. 公共施設での環境改善 公共機関内で使用されている芳香剤や強い香りを放つ製品を撤去し、誰もが快適に利用できる環境を整備する。</p> <p>3. 啓発・教育の推進 教育機関、医療機関、介護施設などにおいて、香料による健康影響に関する講習会を実施する。また、職場内の香料使用に関する指針や規約を提示し、周知を図る。</p> <p>これらの取組により、市川市が「香害に配慮した持続可能なまちづくり」の先進的なモデルとして、SDGsの推進に貢献し、対外的にも積極的に発信していくことを期待する。</p>		
39	<p>市民の「つながり」や「家族形成」に関わる課題を、心理・教育・地域支援の多面的視点から解決へ導く取り組みとして、下記の企画書を提出いたします。</p> <p>本提案は、婚姻数の減少・未婚率の上昇・孤立感の拡大など、市川市においても深刻化しつつある社会課題に対し、”結婚”という一大ライフイベントの向き合う中で婚活”を単なる出会いだけではなく、自己理解と相互理解を深める地域教育の一環として再定義するものです。若年層をはじめ、親世代・企業・地域が連携し、【家族を第一のセーフティネット】として再構築することが、本市の持続的な幸福度・活力向上に寄与できると確信しております。</p> <p>つきましては、本事業の方向性や今後の協働可能性について、一度ご意見を賜れれば幸いに存じます。</p> <p>末筆ながら、市川市のさらなる発展と市民の幸福を心よりお祈り申し上げます。</p>	<p>市民の「つながり」などに関わる課題については、本市の重点課題と捉えています。また、施策別計画「02 こども・若者」において、結婚支援などを推進する旨、記載しています。</p> <p>ご意見については、関係部署に共有し、今後の取り組みの参考とします。</p>	②
40	<p>「フレグランスフリー（無香料）・ポリシーの策定を」いま、人々が生活必需品として使用する日用品（洗剤、柔軟剤、消臭スプレー、整髪料、シャンプーなど）に含まれる香料や抗菌剤成分の影響で、日常生活が送りにくくなっている人が増えています。「香害」とよばれ、社会問題となり新聞報道もなされています。その影響をうけ化学物質過敏症を発症すれば、働けない、学校に行けない、文化的生活を送りにくい、…果ては、呼吸するのもままならない…という現実が迫ってきます。その日用品を本人は、もちろん、使いません。ところがそれだけでは日用品の影響は避け切れません。香りとして巷の人々から空気中に成分が漂っているため、たちどころに具合が悪くなってしまうのです。自分の努力だけではどうにもならないのです。市川市には、自治体として、この問題を皆で解決していく方針を打ち出して頂きたく思います。友好都市、米国ガーデナ市のある、カリフォルニア州公衆衛生局では、日用品の身体への影響を認め、公的な場におけるフレグランスフリー・ポリシーを掲げています。皆が安心して豊かな気持ちで生活を営み、学び、働く</p>	<p>施策別計画「01 健康・保健」において、化学物質過敏性を含めた、健康に関する正しい意識を普及啓発する旨、記載しています。</p> <p>また、ご意見については、関係部署に共有し、今後の取り組みの参考とします。</p>	②

	<p>ことのできる環境を、市は作り出す努力をしていいってほしい、そのひとつにいま、フレグランスフリー（無香料）ポリシーを打ち出すべきときが、来ています。</p> <p>具体的には、市役所、学校など公共の場で人々が香料をできる限り使用しないこと。身だしなみに関する部分のみならず、トイレなどの空間における芳香剤や、清掃用品、手洗い場や給湯室のハンドソープや洗剤などにも配慮する必要があるでしょう。また、市には、こうした、生活に密着した問題を市民とともに考えていく姿勢を、これまで以上に持っていただきたいと思います。市民からのヒアリングを積極的に取り入れた政治が引き続き行われていくことを願います。</p>	
41	<p>テーマ：人口変化を見据え、美術と文化による地域の魅力発信を長期的に支援するまちへ</p> <p>市川市総合計画（案）では、令和8年度から令和32年度までの長期計画として、市の将来像を描いています。この期間、市川市は年少人口減少、老人人口増加が進み、全体では2060年には30%の人口減少とシミュレーションされています（出典：市川市「将来人口推計（地域・地区別）」、市川市総合計画第三次基本計画）。日本全体として人口減少、生産年齢人口の減少は防ぎようがなく、こうした社会変化の中で、人口流動を図り、市川市へ人口滞留させる施策が必要になります。観光以上、定住未満で地域とつながる「関係人口」（考察：田中輝美著「関係人口の時代」）という考えも考慮に入れるべきです。そこで芸術文化業界と広報PR業界で事業に取り組む私としては、「文化・芸術を通じてまちをつなぎ、人と人、人と地域を結ぶ取り組み」を継続的に支援する視点が必要と考えています。</p> <p>【掛け合わせられる3つの柱】</p> <p>市民が主体的に関わる地域文化施策は、人間がコミュニケーションをとるうえでの行動パターンとして「言語的・非言語的行動」、「対人スタイル（自己主張と感情開放）」、「情報伝達の姿勢」等が挙げられ、その行動パターンにもっとも合致しうる【美術】を軸にした「まちづくり」を目指し、「学び」「対話」「発信」の3つの柱を提案したい。</p> <p>1. 美術×学び</p> <p>市内にいる、美術家、美術評論家、美術業界従事者など専門家を招聘し、学校や市民講座などで、美術を通して感じ、考える学びを広げる機会を設けてください。年齢や職業を問わず、多様な市民が文化に触れ、表現する機会を持つことで、世代を超えたまちの活力が育まれます。</p> <p>2. 美術×対話</p> <p>アーティストや著名人、市民が参加する対談・トークなど市民同士が交流をして、場を共有し、「アートを持つことの面白さ」</p>	<p>基本目標5において、美術を含めた文化などの魅力を通じて、多くの人々が集うまちづくりを推進する旨、盛り込んでいます。</p> <p>また、ご意見については、関係部署に共有し、今度の取り組みの参考とします。</p> <p>②</p>

	<p>や「文化の力」を語り合う場を設けてください。こうした対話を継続的に行うことで、市民の文化的誇りや地域愛が育ちます。</p> <p>3. 美術を通じた地域PRの推進</p> <p>市内の文化活動やアーティストの取り組みを市として積極的に発信し、地域ブランドとして位置づけてほしいです。市川の文化を内外に伝える広報体制を整えることが、移住・交流促進や地域経済の活性化にも寄与します。</p> <p>【1、2、3の美術施策=まちづくり】</p> <p>公共空間や商店街、空き店舗を活用した地域アートフェアや展示を通じて、市民・企業・アーティストが協働する文化的まちづくりを進めてほしいです。もちろんこれまで文化団体と協力して芸術祭・文化祭を開催し、芸術文化を学ぶ、意識作りは醸成しており、さらに美術に特化したものとして「NAKAYAMA Air」や「いちかわ芸術祭」といった取り組みをしています。とは言え、美術特化版となると、地域住民との対話、商店街への経済的な落としみ、つまり学びの共創の場は少なく、雇用創出や商店の売り上げ貢献といった施策・システム構築もなされずに、且つ継続性はなく、一過性にとどまっていると感じます。地域との共創の場や地域へ還元できるシステムを構築し、新しい持続可能な具体的な施策を実行するためには以上の施策を掛け合わせることが非常に重要と考えます。</p> <p>以上の施策から、美術を通して新しい価値が地域に生まれ、上記の関係人口となる人口滞留化がここ市川市で実現でき、こうした地域の新しい発信はまちのにぎわい創出にもつながり、人口減少時代における日本の新しいモデルプランになると考えます。文教都市【市川】として、総合計画が長期にわたるからこそ、文化政策も短期事業に終わらせず、人口動態の変化に対応しながら、10年、20年と続く「まちを支える仕組み」を盛り込んでいただきたいと考えますし、そのためであれば具体的な提案もご用意いたします。きっと、市民が美術を通じて関わり続けられるまちは、人口減少下でも活力を保ち、人が集い、学び、誇りを持てる都市へと発展するはずです。</p>	
42	<p>私は、当案について、「園芸療法・園芸福祉」の手法を取り入れることを提案します。園芸療法とは、人間が心身を健康に過ごすため、また健全な社会生活を送るために、現在困っている問題等を、植物を介在させることで改善していくこうという試みです。また、園芸福祉とは、植物を通した多彩な活動により、豊かな地域社会を創りだしていくことを目的としています。園芸療法・園芸福祉は、まだまだ日本ではあまり認知されていませんが、現在、病院、高齢者施設、障がい者施設、児童福祉施設等で活用されるところも出てきており、社会更生や海外ルーツの人々や孤立者・独居者などをつなぐ手段としても期待されています。</p>	<p>個別・具体的なご意見であるため、関係部署に共有し、今後の取り組みの参考とします。</p> <p>②</p>

ます。海外には、ニューヨーク市 ブルックリン植物園・シカゴ植物園他、さまざまな園芸療法・園芸福祉の機能を備えた庭園があります。市川市においても、核家族化・共働きにともなう子どもや高齢者・障がい者ケアの難しさ、片親世帯等の格差の広がり、また市外から新しく流入してくる人々や、海外からのルーツを持つ方々も増え、孤独や分断を感じる人々、助けの手にアクセスできない人々も多くなっているかと思います。誰もが健やかで明るく過ごし、「緩いつながり」で自分の居場所を作り、希望を持って暮らせる社会。例えば近年増えている認知症や独居の方、片親で育児が大変な人や困っている子どもに、声をかけてあげられる場所、相談でき、癒しを得られる場所を作る。また、そういった人たちに市民一人一人が自然に手を差し伸べることができる。市川市は現在「ガーデニングシティいちかわ」を標榜されています。これをもっと踏み込んで、市川市が園芸療法・園芸福祉の最先端都市となるのはいかがでしょうか。

＜提案：原木地区に園芸療法、園芸福祉の機能を備えた、質の高い大きな緑豊かな公園を作り、ケアプラザ的な機能を持たせる＞

市役所から南東の方向には、緑豊かな大きな公園がほとんど存在しません。コロナ禍の際にも子どもたちが安心して健康的に遊びに行けるところがほとんどありませんでした。原木地区は集客施設であったコーナン等のショッピングモールの移転により真間川周辺の人通りが減りました。さらに、バスルートがなくなりすっかり陸の孤島となり、日用品を買うための妙典や本八幡へのアクセスにも不便を感じています。また近年、原木地区周辺には高齢者施設銀座と言えるほどつぎつぎと施設が立ち並び、特別支援学校もあります。昔ながらの家屋がマンションや戸建てへと建て替わり、若い世帯も増えており、園芸療法・園芸福祉の果たせる役割は大きいと考えます。

本八幡～コルトンプラザ～ショッピングス～ココパーク～原木園芸療法公園（仮）～クリーンスパのルートでバスを走らせることができれば、多方面からの公園への来場も期待でき、子どもや老齢者に優しい生活環境を整えることができます。

ここに、質の高い大きな緑陰のある、イベントなども可能な公園を作ります。求める機能としては、

公園内施設：

- ・総合診療医、看護師、作業療法士、公認心理士、ソーシャルワーカー、園芸療法士、園芸福祉士、マッサージ師などが常駐
- ・高齢者施設や障がい者施設の方などが車で来場できるよう、駐車場を完備
- ・酷暑でも日差しを遮り、雨天でも活動できるように、100

<p>人程度入れそうな大きなしっかりした庇（ひさし）の付いた屋根を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や育児中の親がのんびりできるような、授乳スペースや仮眠もできる、縁側のある実家ののような場所を設ける。 ・キッチン、寝ころべる畳、会議室 ・園芸療法・園芸福祉・地球の気候と温暖化対策等の研究室を設け、市川市の他の公園やコミュニティガーデンとも連携を図る。 ・サテライトオフィスとしても使えるように、Wi-Fiやカフェなども備える。 ・防災拠点、アート、音楽イベント、ボイスカウトなどの活動の場にも活用する。 ・市川市の観光の発信の場ともする。市川市の産物、育てた野菜や植物、利用者によるハンドクラフトの販売など。 <p>園庭：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市政90周年を記念して、ケヤキやモミジなど、大きな木陰が作れる大木を植える。 また、海風が強いので、塩害に強く市の木である黒松を列植して防風林とするなど、木陰の多い公園にする。 ・酷暑に備えてグリーンカーテンや大きな緑のあずまやなどを設ける ・緑を観察しながら心地よく散策できる園路、休憩できる充分なベンチ ・森林浴のできるジョギングコース、運動器具 ・市民参加のオープンなコミュニティガーデン ・ハーブ、多年草を多用し、ローメンテナンスで五感で楽しめる公園にする。例えば、寝転がって香りを楽しみ、五感で感じるハーブの丘を作る。 ・季節の花を摘み取り可能な花畠をつくる。 ・ボール遊びエリア→芝をみんなで育てる ・足の悪い人も楽しめる、レイズドベッドの花壇をつくる。 ・ちょろちょろ流れる程度の水のきれいな小川を引き（ビオトープ）、自然探求ができるような環境をつくる。 ・幼児を安心して遊ばせられように柵を設ける ・ボール遊びや自転車の練習、ちょっとしたローラースケート、スケートボード、夏は花火などができる場所を作る。 ・公園にはキッチンカーや移動販売車などを呼び、来園の目玉にするだけでなく、地域の高齢者や単身者、育児中の親などの利便性をよくする。 ・バーベキューエリア、ドッグラン、キャットラン ・簡単なお茶席、貸し農具、農園スペース ・コンポストの推進→ごみの削減、園芸用土の再生 	
---	--

・イベント：剪定教室、ピクニックナイト、収穫した野菜のクッキング・食事会など
以上、ぜひ部分的にでも園芸療法・園芸福祉の活用について、
市川市総合計画案の中に加味していただけたら幸いです。ご検討どうぞよろしくお願ひします。